

第 39 回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

1. 「自分らしく逝くために」を支え、寄り添う一ところを受け継ぎ、伝える 西村幸祐・澤井美穂

特別提言

渡邊 正

特別講演

1. 良き生を生き、良き死を死す 柏木哲夫
2. よりわかりやすいスピリチュアルペインとそのケア 山崎章郎
3. 浅き夢見し酔ひもせず 玄侑宗久

教育講演

1. 望ましい生と死を実現するための対話—アドバンス・ケア・プランニング— 木澤義之
2. 看取りのケアのクリニカルパス—Liverpool Care Pathway 日本語版の現在とこれから— 茅根義和
3. 源流に遡る、そして河を下る—ホスピス緩和ケアの変化と多様化— 志真泰夫
4. 傷ついた癒し人 恒藤 暁
5. 構造構成医療学の冒険 岡本拓也
6. 死の臨床における研究—倫理的視点から— 宮下光令

招聘講演

1. 私の死生観—現代医学とスピリチュアリズムの融合 吉田和弘

シンポジウム

1. 自分らしい逝き方 座長コメント 西村幸祐・清水千世
自分らしく逝くことについて 馬淵 淳
死を受け入れると、意識が高まる—自分らしい逝き方— 寺山心一翁
「自分らしい逝き方」を支えるためにホスピス医が思うこと、そして「私らしい逝き方」 大井裕子
最後の1ヵ月を自宅で過ごす意味—最期まで息子であり、父親であり、夫であり続けるために— 沼田靖子
「自分らしい逝き方と望む援助」について 田中夏江
自分らしい逝き方と望む援助 岡崎正典
自分らしい逝き方と望む援助 井上実穂
「もう良いよ」といえる生き方と終え方 末永和之
2. さまざまな場での死の臨床—“自分らしさ”を支えるために— 座長コメント 家田秀明・月山 淑
救急医療における終末期の特徴 岩田充永
最期まで美しい寝姿の提供—美しさ (Beauty) ・心地よさ (Comfort) ・尊厳 (Dignity) — 桑田美代子
重度の脳損傷後の遷延性意識障害状態からの再生 石山光枝
終末期腎不全患者さんへの、透析治療を見つめ直す—透析を開始しますか？透析を続けますか？
透析以外の方法を考えてみませんか？という問いかけ— 石川英昭
3. 死の臨床に携わる人への教育—ケアのここをつなぐために— 座長コメント 高宮有介・辻川真弓

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 医療系学生へのいのちの授業とセルフケア | 高宮有介 |
| 看護学生のスピリチュアルケア教育ー瞑想を取り入れた体験からー | 安田裕子 |
| 非医療系大学における死の臨床に関する教育 | 坂口幸弘 |
| ケアする人にも「ケアのこころ」を | 永井照代 |
| 4. さまざまな宗教における死の概念とその援助 | 座長コメント 前野 宏・藤腹明子 |
| 神道の生死観 | 安蘇谷正彦 |
| 原始仏教における死生観 | 岩崎良行 |
| キリスト教における死と希望 | 林 陽子 |
| イスラームにおける死と看護 | 青柳かおる |

パネルディスカッション

- | | |
|--|-------------------|
| 1. 終末期患者を支える地域医療ーわたしを変えた失敗と学びー | 座長コメント 吉村 学・石口房子 |
| 在宅医療 26年 多職種連携の大切さー若かりし頃の辛い経験を通じてー | 小笠原文雄 |
| 寄り添うことが許された者かどうかを自問する日々 | 入学佳宏 |
| わたしを変えた失敗と学び | 宇都宮宏子 |
| 私を変えた失敗と学びー訪問看護の現場より | 野崎加世子 |
| 2. がんサバイバーを支える緩和デイケア・サロン | 座長コメント 阿部まゆみ・安藤詳子 |
| 在宅緩和ケアクリニックが目指す緩和デイケア・デイケア・カフェ | 柴田岳三 |
| 参加者の自己効力感の向上につながるがんサロンのあり方 | 宇根底亜希子 |
| 愛知病院の緩和デイケア・サロンー本人と家族の心が穏やかであるために | 藤井恭子 |
| 3. 親を亡くす子どもへの援助ー子どもに何を伝え、どう支えるか | 座長コメント 池永昌之・茶園美香 |
| 「大切な人を亡くした子どもとその家族のつどい」の活動と保護者へのインタビューを通して | 杉本脩子 |
| 親を亡くす前後の子ども、そして親へのサポート | 大沢かおり |
| 看護師からみた子どもへの支援とはーグリーフワークの一助を目指して | 柴田亜弥子 |

教育研修ワークショップ

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 死の臨床におけるコミュニケーションースピリチュアルケアを目指して | 馬場祥子 |
|-------------------------------------|------|

特別企画 39 (サンキュー) Project Git from GIFU

- | | |
|---|--------|
| 1. 「死生観・円空の生き方・死に方」ー12万體造仏悲願の背景にある人間の苦悩から | 大下大圓 |
| 2. “東洋のシンドラ” 杉原千畝に学ぶ | 國枝大策 |
| 3. 人生の最期に聞きたい曲は何ですか？ | 濱島秀行、他 |
| 4. 落語発祥の地・ぎふー安楽庵策伝上人 | 高井雅康 |
| 5. 奥の細道はどうして大垣で終わるのかー芭蕉文学と死の意識 | 塩村 耕 |

セミナー

- | | |
|------------------------------------|--------|
| 1. 家族・遺族をケアする方々のための | 大西秀樹 |
| 2. ケア提供者の死生観・スピリチュアルケア教育の進め方 | 神谷 亨、他 |
| 3. 患者就労支援ー自分らしく、生きるを支えるために | 山内英子 |
| 4. シャネル！ ありがとうードッグセラピーは緩和ケアの質を向上する | 家田秀明、他 |
| 5. 医療従事者と家族に向けたツボ療法 | 齋藤剛康 |

6. いのちの理由—赤ちゃん医療の現場から考えること 寺澤大祐

震災関連特別企画講演

1. 東日本大震災の遺体安置所で求められた〈祈り〉の形 石井光太
2. 御嶽山噴火災害時の心のケアから、サバイバーギルトについて考える 小泉典章

市民公開講座

1. どう死んだらいいですか？ 山田貴敏

ソーシャルワーカーのためのEnd-of-Life Care ワークショップ

田村里子

ありかた特別委員会企画ワークショップ

1. 死をみつめる 死について—いろいろな立場から看取りについて考える 三枝好幸、他

国際交流広場

1. End-of-Life in Hong Kong (香港におけるエンド・オブ・ライフケア) Amy Chow、他
2. Cultivating Emotional Competence in Working with Dying and Bereaved Persons
—死に逝く人々と先立たれた人々との仕事における感情的しなやかさの修養 Amy Chow、他

事例検討

1. 最期まで積極的治療を望んだ事例を通して
—幼い子どもをもつ母親のその人らしさに寄り添って 榊間美奈
2. 患者が言葉で訴える苦痛とは別の苦痛を捉える
—麻薬の持続皮下投与を中止した事例を振り返って 萩谷翔太
3. 「息子の受験が終わるまでは頑張りたい」と多数の医療機関に通い続けた硬口蓋がん患者と
家族の関わり 佐藤静子、他
4. 両親との愛着形成障害による疼痛マネジメントへの弊害 吉本 歩
5. 「自由に生きたい」と繰り返す患者らしい最期を迎えるための医療者の関わり 木村聖子、他
6. 一般病院における意思決定支援—療養先の選択 小田恵理
7. 当院緩和ケア病棟への入院を待つ間に他院で死亡した患者の夫と子への看護がいらいで
グリーフケアを考え、家族は何を思うか 森 麻衣子
8. 最期の処置について本人の意思を確認することによりスタッフ間の信念対立が発生した1事例
越山智子
9. 「介護する者」と「介護される者」の思いに寄り添うとは
—障害者となった夫と20年間寄り添った妻の事例 矢尾知恵子、他
10. 一般病院で患者の“心”を扱う必要性と限界
—希死念慮をもつ1型糖尿病患者との関わりを通じて 清水冴果
11. 「ねえ、戻るの？」と訴える患者に何も答えられなかった看護師の苦悩 藤田皆奈、他
12. 作業療法士が見つないだ家族の絆—人生最期に生き別れた娘と逢いたい 河本敦史、他
13. 無力感を抱えるスタッフへのサポートを考える
—急な経過を巡り看取りとなった体験にどう向き合えばよいか 平川未来、他
14. 家族の医療者への怒りを死別の悲嘆に対するスピリチュアルコーピングの

- 現れと捉えたがケアに難渋した1事例 相木佐代
15. 短期間に両親をがんで亡くす子どもへの支援の検討 馬淵真澄、他
16. 長男を亡くした当日から「生まれ変わり」を念じて、第二子を授かった両親への関わり 小口祐子、他

原著

1. 脳死状態における臓器提供に対する大学生の意識と意思表示の実態と関連要因
—看護学生と非医療系学生の比較において 内村 栞、他
2. がんを合併した統合失調症患者を看取る精神科看護師の緩和ケアを促進させる要因 久松美佐子、他

調査報告

1. 看護師の死生観に影響を及ぼす臨床場面と看護実践の変化 菅 裕香、他
2. がん診療連携拠点病院の「がん患者サロン」利用者にみられる変化をもたらす要因
—病院スタッフからみた利用者の変化から 伊藤正道、他
3. 希死念慮を訴える患者に接する時 清水加奈子
4. 終末期がん患者・家族が思いを伝え合うことによるQOLへの影響 小林さゆり、他
5. 乳がん体験者の闘病記にみる病い体験による肯定的変化 仲田みぎわ、他